2006 年度

科目名 演習Ⅱ	対象学科・学年 文学部日文4回生	担当者 高橋 圭一
授業テーマ 近世文学の基礎的研究——翻刻と注釈——。		
授業の概要と目標 本学の図書館に大量に収蔵されている近世文学のマイクロフィルムの中から、未翻刻の黄表紙・合巻（明治合巻でも可）を選び出して翻刻し、漢字を宛て、注釈を施します。今年、一つの作品の注釈に十分な時間をかけて、活字化されているものにも遜色のないような注釈を付けることを目標とします。なお、大学院進学を目指す場合は翻刻と注釈だけでなく、近世小説に関する論文を書いてもらいます。		
評価方法 出席と翻刻・注釈の出来具合で評価します。私を頼りすぎた人の評価は当然低くなります。		
テキスト 一枚十円でコピーしてください。	著者	出版社
参考書 『江戸語の辞典』（注釈の必需品です。各自購入しておいてください）	著者 前田勇	出版社 講談社（学術文庫）
授業スケジュール・内容 1、3回生時の続き（まだ終わっていなかったのので…）。『江戸生艶気樺焼』 2、〃 3、〃 4、翻刻作品の選択とコピー。（於図書館マイクロフィルム室） 5、続き。（〃） 6、卒業研究作成に必要な工具書類の紹介。（於図書館） 7、作品翻刻（まだ漢字は宛てられなくてもかまいません） 8、〃 9、〃 10、〃 11、〃 12、翻刻の終了した作品に、適宜漢字を宛てる。 13、〃 14、〃 15、〃 16、〃 17、漢字を宛て終わった作品に、それぞれ担当者を決めて注釈を加える。 18、〃 19、〃 20、〃 21、〃 22、〃 23、〃 24、〃 25、卒業研究作成のための個別指導（原則として、必要とする人のみですが、こちらから進捗状況を尋ねる場合もあります。個人研究室ではなく、セミナー室で行います） 26、〃 27、〃 28、〃 29、〃 30、卒業研究提出とその報告。締め切り前日までには必ず提出しましょう。		